

野鳥の搬送方法



捕獲するときは軍手やタオルなどで触りましょう。暴れたり傷がひどい場合は顔をタオルで覆い目隠しをします。鳥の骨は哺乳類に比べて脆く力加減を間違えると骨折してしまうこともありますので注意してください。できるだけ早い搬送が望ましいですが手で持った状態での搬送は動物に大きな負担をかけてしまいますのでやめてください。

保護動物のサイズに合わせて段ボールを用意してください。(大きすぎる、小さすぎる箱は不可) カゴやケージ、発泡スチロールなどは怪我をしている野鳥にとっては不向きです。ケガをしているヒナなどは段ボールの中にカップ麺の容器や小さい箱を入れて巢の形を作ってあげてください。このとき小さい容器からヒナが落ちないように注意してください。

段ボールの床面は新聞やタオルを敷いて滑らないようにします。暴れそうな個体なら側面に数か所穴をあけておきましょう。

準備ができたならそっと動物を箱の中に入れます。ふたを閉める時は箱の中が真っ暗にならないように注意してください。

すぐに保護センターへ搬送される方は餌や水などは入れずそのまま揺らさないように注意しながら搬送してください。車で搬送する場合は可能な限りレッグスペースやトランクへ置いて、運転中に箱がひっくり返らないよう気を付けてください。

一晩様子を見る必要のある方は、割れにくい小さめの器に水を入れてください。餌は正しい種類がわかる場合のみ入れてください。どんなものを食べるのかわからない場合は水のみでかまいません。

ヒナは本来なら1～2時間おきにさしえさが必要ですが間違った餌を与えてしまう方が命にかかわってきますので、水分のみ定期的に与え、種類や餌がわからない限りは与えないでください。

またヒナやケガをしている場合は保温が必要です。ペットボトルゆたんぼなどで箱の中を32度前後に保ってあげてください (高温になりすぎないように注意) ぐったりしている場合は定期的に砂糖水やはちみつ水などを数滴くちばしの先端に垂らして飲ませてください。この時無理に口を開けて飲ませることは誤嚥の危険がありますのでやめてください。

※搬送後、当センターで受け入れる場合は使用したタオルや箱などは衛生面なども考えすべてこちらで引き取り処分をさせていただきます。